

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和5年度 1月号

子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。始業式では、寒い中でしたが元気に校歌を歌って、新学期のスタートを切ることができました。

今年のお正月は、石川県を中心とした「令和6年能登半島地震」が発生し、甚大な被害をもたらしました。被害の大きさ、そして人々の悲しみは、何不自由なく生活し生きていることが当たり前のことではないことを、私たちにしらしめたように感じます。

亡くなられた方々の御冥福と被災地の一日も早い復興を心からお祈りするとともに、一人一人が、今の自分にできることを考えて行動していくことが大事だと思います。

御前崎小学校は、本当に「ほっかいっぱいの学校」になっているか？

昨年12月に、ある子供が校長室に自作の本を持ってきました。本の題名は「ほっかいっぱい」。御前崎小をほっかいっぱいの学校にしたい！という強い思いをもっている子供でした。そのために、学級で悲しい思いをしている人がいては、それはほっかいっぱいと言えないんだという思いを本にしたと話してくれました。

この本は、学級の友達にも広がり、その後複数の子供が「ほっかいっぱいの御前崎小」にするために、自分の思いを伝えにきてくれました。児童会でも提案されていたこともあって、一人一人がきちんとこの課題に向き合っている姿に感動しました。

この出来事を職員とも共有し、それぞれの担当が動きを作って、3学期がスタートしました。子供たちにも、まとめと次への一步を踏み出す3学期に、もう一度、自分のこと、友達のこと、学級や学校のことを見つめ直し、みんなが笑顔になれる「ほっかいっぱいの御前崎小」をめざしていこうと話しました。

地域や御家庭でも、子供たちの、自分も周りの人も「ほっかいっぱい」する行いをたくさん見つけ価値づけさせていただきたいと思います。

(校長)



各教室に準備された3学期スタート、「おはよう黒板」です。